

広告

企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局

2010年度 一橋大学 秋季公開講座 一橋大学政策フォーラム
イノベーションと日本の活力



建築家・東京大学名誉教授
安藤 忠雄氏

基調講演
チャンス逃すな

ここ数年、各地の大学で学生に向けてポテンシャルの講演をしている。そのたびに問題提起していることがある。それは「1980年以降に生まれた人々には、無気力な人が多い」ということだ。彼らが生まれ育ったのは、日本のバブル経済が絶頂を迎えた時代である。この国が未来永

幼（えいごう）で発展していくものと誤解した親たちは、子どもたちを過保護に育て、求めものを与え続けてきた。その結果、自立心や決断力に欠けた若者たちが育ち、今深刻な社会問題になりつつある。私は経済的な事情や学力的な問題から大学進学をあきらめた人々もいると信じているから。私は経済的な事情や学力的な問題から大学進学をあきらめた人々もいると信じているから。

勇気の挑戦で苦境を好機に
境界を超えて、若者よ進め

私自身、最近ではアジア諸国を歩まざるを得なかった。誰に頼ることもできない。意

見る友を交わす人少ない。常になどと孤独との闘いだ。そんな状況だったから、断り、行動する訓練が積れた。今の多感な時期を勉強のみに費やし、ほかのあらゆる可能性をおかした状態に陥っている。こうした状況で判断力のある人間が育つはずがない。

人々企業の変革を通じて
時代が抱える難題克服

目を交わす人少ない。常になどと孤独との闘いだ。そんな状況だったから、断り、行動する訓練が積れた。今の多感な時期を勉強のみに費やし、ほかのあらゆる可能性をおかした状態に陥っている。こうした状況で判断力のある人間が育つはずがない。



会場となった一橋大学兼松講堂には大勢の聴講者が詰めかけた

一橋大学は「イノベーションと日本の活力」をテーマに、秋季公開講座「一橋大学政策フォーラム」を開催した。建築家の安藤忠雄氏が基調講演をしたほか、特定非営利活動法人（NPO）法人「ガイア・イニシアティブ」代表の野中ともよ氏、一橋大学イノベーション研究センター長の米倉誠一郎氏など有識者が集い、経済発展の原動力となるイノベーションについて多角的な視点から議論を交わした。

テーマ① 環境と経済を両立させるイノベーション

問題提起

技術生かす戦略を
米倉誠一郎氏

国内の対策だけで二酸化炭素（CO₂）排出量を25%削減することは難しい。しかし、中国などで計画中の石炭火力発電所に日本の技術を提供すれば、年間1億トンを削減する見込みがある。日本には必要なのは高度な技術を生かす

よい制度が不可欠
江藤学氏

環境と経済を両立するためには、技術開発や優れた技術の普及を促す「よい制度」が



江藤氏

パネル討論

野中 問題提起を踏まえて両氏の見解を伺いたい。

長岡 日本が持つ現在の環境技術を海外に移転するだけではCO₂問題の根本的な解決にはならない。あらゆる技術的な可能性を追求し、フレ

一橋大学イノベーション研究センター教授
長岡 貞男氏
一橋大学イノベーション研究センター准教授
榎井 誠氏
NPO法人ガイア・イニシアティブ代表
野中 ともよ氏



長岡氏



野中氏

全員参加促す仕組みが必要
変化生む人材の育成が焦点



榎井氏

安定して成長できる国際環境を整える必要がある。野中 変化を求めながら、ベンチャー企業などに資金が集まらない現実もある。新たな挑戦を支援する制度設計を考える必要はないか。榎井 世界を変えるほどのイノベーションを起こせる人物は、必要なものを世界から調達するだけの突進力を持つだけでは、知的財産を確保しながら事業化できる国際人材が必要である。

テーマ② 日本企業のものづくり力とイノベーション

問題提起

価値づくりに課題
延岡健太郎氏

日本企業のものづくり力は一流である。しかし、技術的・機能的価値を超えた付加価値を提供する「価値づくり」が不得手であり、素晴らしい商品を開発しても収益に結び付けられずいる。薄型テレビなどはその代表例。

「いざなぎ超え」といわれた好況期、日本の製造業は営業利益率を増大したが付加価値率は急落した。目先のコスト削減で利益を捻出するのは多くは多くの問題を生むが、本来仕事というものは問題を解決し、新たな価値を生み出すことだ。

現在の日本の若者に欠けているのは、境界を超えて物事を発展させる「元気」だと思

「元気」は、アサヒビールとサントリー、両社の美術展を同時に手掛けたことである。通常では考えられないことだ。両社は典型的なライバル関係にあり、いわは犬猿の仲。両社の仕事を同時に引き受けるのは勇気ばなな。

「元気」は、アサヒビールとサントリー、両社の美術展を同時に手掛けたことである。通常では考えられないことだ。両社は典型的なライバル関係にあり、いわは犬猿の仲。両社の仕事を同時に引き受けるのは勇気ばなな。

「元気」は、アサヒビールとサントリー、両社の美術展を同時に手掛けたことである。通常では考えられないことだ。両社は典型的なライバル関係にあり、いわは犬猿の仲。両社の仕事を同時に引き受けるのは勇気ばなな。

「元気」は、アサヒビールとサントリー、両社の美術展を同時に手掛けたことである。通常では考えられないことだ。両社は典型的なライバル関係にあり、いわは犬猿の仲。両社の仕事を同時に引き受けるのは勇気ばなな。

「元気」は、アサヒビールとサントリー、両社の美術展を同時に手掛けたことである。通常では考えられないことだ。両社は典型的なライバル関係にあり、いわは犬猿の仲。両社の仕事を同時に引き受けるのは勇気ばなな。



延岡氏



青島氏



西口氏

一橋大学イノベーション研究センター教授
中馬 宏之氏
一橋大学イノベーション研究センター教授
西口 敏宏氏
一橋大学イノベーション研究センター准教授
榎部 大氏
一橋大学イノベーション研究センター准教授
青島 矢一氏

パネル討論

青島 問題解決の鍵は何か。中馬 ICTの新たな活用が必要だ。ICT革命の本質は、あらゆる事柄の自動化と目録化だ。だが、多くの日本企業は、後者をいまだ十分に生かしてきていない。その結果、組織間の情報の伝送、ICTや人的ネットワークの鍵

ICTや人的ネットワーク
変化に強い組織づくりの鍵



中馬氏



榎部氏

軽い組織づくりの鍵は、社員が自身の影響力を感じられることだ。また、議論を通じて対立を解決し、適切な組織を構築する。社員が自身の影響力を感じられることだ。また、議論を通じて対立を解決し、適切な組織を構築する。社員が自身の影響力を感じられることだ。また、議論を通じて対立を解決し、適切な組織を構築する。



主催：一橋大学 <http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/project/forum.html>
お問い合わせ先：一橋大学政策フォーラム TEL 042-580-8053

135th Anniversary
80 years in Kunitachi